

【練習問題】

[8] 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

元方の民部卿の御孫、儲けの君にておはするころ、帝の御庚申かうしんさせたまふに、この民部卿参りたまへり。更なり。九条殿さぶらはせたまひて、人々あまたさぶらひたまひて、攤打だたせたまふついでに、冷泉院の孕はらまれおはしましたるほどにて、さらぬだに世人いかがと思ひ申したる<sup>(A)</sup>に、九条殿、「いで、今宵の攤仕うまつらむ」と仰せらるるままに、「この孕みこまれたまへる御子、男におはしますべくは、でう六出で来」とて、打たせたまへりけるに、ただ一度に出で来るもの<sup>(B)</sup>か。ありとある人、目を見かはして、めで感じ持てはや嘸はしたまひ、御みづからも「いみじ」<sup>(C)</sup>とおほしたりけるに、この民部卿の御気色いと悪しうなりて、色もいと蒼あせくこそなりたりけれ。<sup>(D)</sup>さて後に、靈りやうに出でまして、「その夜、やがて胸に釘は打ちてき」とこそそのたまひけれ。

大方、この九条殿、いとただ人にはおはしませぬにや、おぼしめし寄る行末の事なども、叶かなはぬはなくぞおはしませしける。口惜しかりける事は、まだいと若くおはしませしける時、「夢に、朱雀門の前に、左右の足を西・東の大宮に差し遣りて、北向きにて内裏を抱きて立てりとなむ見え

(ア)」と仰せられけるを、御前に生さかしき女房のさぶらひけるが、「いかに御股痛くおはし

〔出題校〕

東京都立大

〔重要語句〕

- 儲けの君
- おはす
- たまふ
- 参る
- 更なり
- さぶらふ
- あまた
- ついで
- おはします
- ほど
- さらぬ
- いかが
- 仕うまつる
- 仰せらる
- めづ
- いみじ
- おぼす
- 気色
- いと
- 悪し

まし  
 (イ) らむ」と申したりけるに、<sup>(E)</sup> 御夢違ひて、かく子孫は栄えさせたまへど、摂政・関白  
 えしおはしまさずなりにしなり。

(『大鏡』より)

注 元方の民部卿藤原元方

九条殿藤原師輔

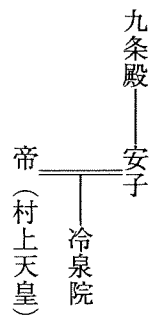
庚申かうしん 庚申の日には人体に潜む虫が、人の眠っている間に、その人の悪事を天帝に密告すると信じら

れ、その日は寝ないで夜を明かした。

攤だ 二つのサイコロを筒に入れて振り出し、出た目を競う遊び。

でう六 六サイコロの六の目が二つ出ること。

〔参考系図〕



- 色
- ます
- やがて
- のたまふ
- 大方
- ただ人
- 行末
- 口惜し
- 内裏
- 生さかし
- 女房
- いかに
- 違ふ
- かく
- 摂政
- 関白
- えゝ打消

問一 空欄(ア)(イ)に適合する「つ」の活用した形を記せ。

(ア)

(イ)

問二 傍線部(A)「さらぬだに世人いかがと思ひ申したる」について、「世人」は何についてどう考えたのか、説明せよ。

問三 傍線部(B)「ただ一度に出で来るものか」を現代語訳せよ。

問四 傍線部(C)「御みづから」とは誰のことか、文中の言葉で記せ。